

日本の若者の結婚観

(On Japanese Young Generations' View of Marriage)

ジャン-ライラ

Lyra (Hanyu) Jiang

82-372 Advance Japanese 2

はじめに

トピックの質問は「今の若者の結婚観は昔の人と比べて、何が変わったか」。去年の春、私は「逃げるははじだが役に立つ」という日本のドラマを見た。主人公森山さんは専業主婦として“就職”することになった。こういう不思議な関係はおもしろいと思う。このドラマは「専業主婦の家事は価値がある」と伝えている。私はこれから、日本の若者の結婚観を調べたいと思って、このトピック選んだ。

結論は以下のようだ。今の若者の結婚観は変わった。全然結婚したくない女性の数は増えた。今の女性は労働者になりたくて、男性の中には家庭主夫になって、家事をする人もいる。昔の人たちと比べて、新しい世代の人はもっと女性の意見を尊重している。

1 日本の若者の結婚観の調査

1.1 若者は何歳に結婚したいか？

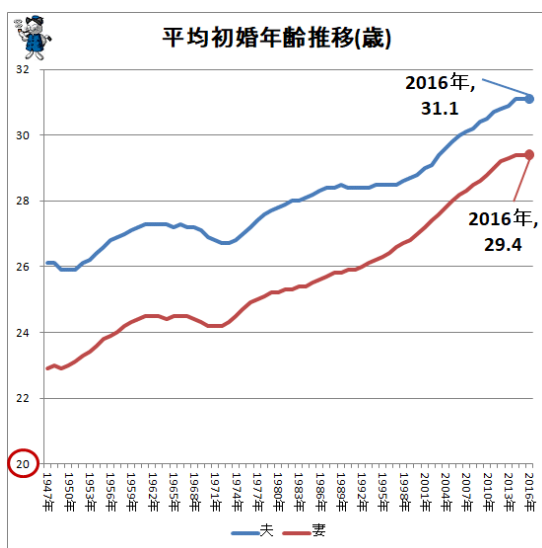


図1

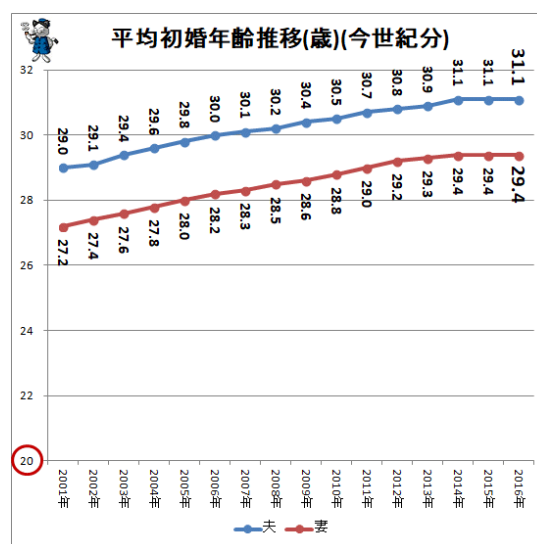


図2

図1と図2はは2016年までの全国平均における男女別平均初婚年齢のグラフだ。最新値となる2016年において平均初婚年齢は夫は31.1歳で、妻は29.4歳だ。前年2015年分と比べるとそれぞれプラスマイナスゼロだ。前年、前々年で変わらずの結果ではあるが、1950年(夫25.9歳、妻23.0歳)と比べると、大体5年ほどのプラスとなる。

これにはいろんな原因がある。一つ目は中長期的には男女間の価値観の移り変わりだ。「東京テレビ」の調査によると(図3)、今の世代の中で結婚したくない人がふえた。「東京テレビ」は2008年と2015年に「20代 結婚願望の現状」という調査をした。2008年の時、結婚したくない人は10.1パーセントだった。2015年の時、結婚したくない人は17.8パーセントだったので、7.7パーセントふえた。若者は自由に生きていく方が楽しい人生を送れると思っている。

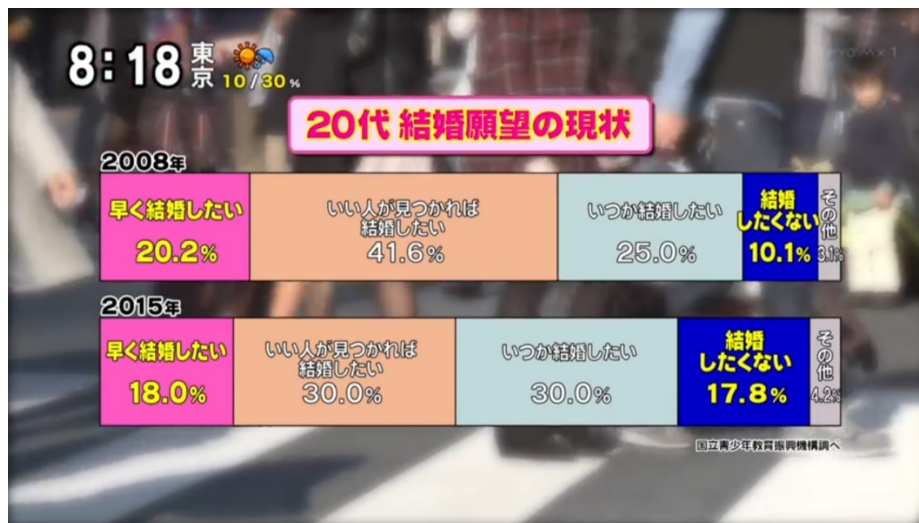


図 3

二つ目は金銭的なことだ。子供の教育費と生活費が増えたのに、今の若者は昔の世代と比べて、給料が低い。だから、子供を育てるのは今苦難になった。

三つ目は社会環境の変化の影響だ。今は仕事メインになって、恋愛が要領よくできない。大学を出てから働く人も多いので、現実的に考えれば、昔より 20 代で結婚するのが難しい。さらに晩婚化は出産時における女性への負担を重いものとするので、多種多様な問題点がある。

1.2 今の若い女性は結婚しても仕事を続けたいか？

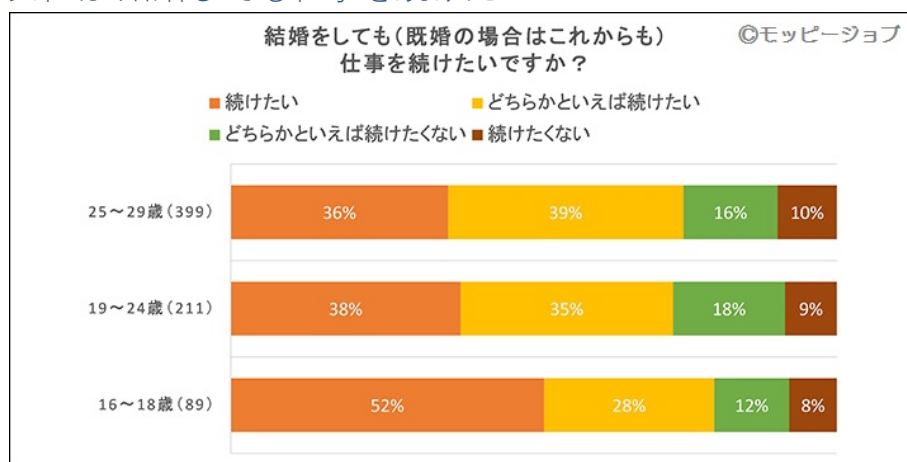


図 4

今の若者は専業主婦にくらべて、会社員になりたい。結婚しても仕事を続けたいかどうかについて各世代に聞いてみたところ、ほぼ 70~80%の人が仕事を「続けたい」「どちらかと言えば

続けたい」と答えていた。「16～18 歳」の世代では半数以上が「続けたい」を選択。10 代の若者にとって結婚はもちろん、仕事への意識も高いようだ。

経済的に不安があると、結婚して子どもを産む、という決断になかなか至らないと容易に考えられる。しかし結婚して子どもを持ちたい、と思う人がいる一方で、仕事や趣味を充実させるため、結婚しても子どもを産まない生き方を選ぶ人も増えてた。セクション 2.3 で詳しく述べる。

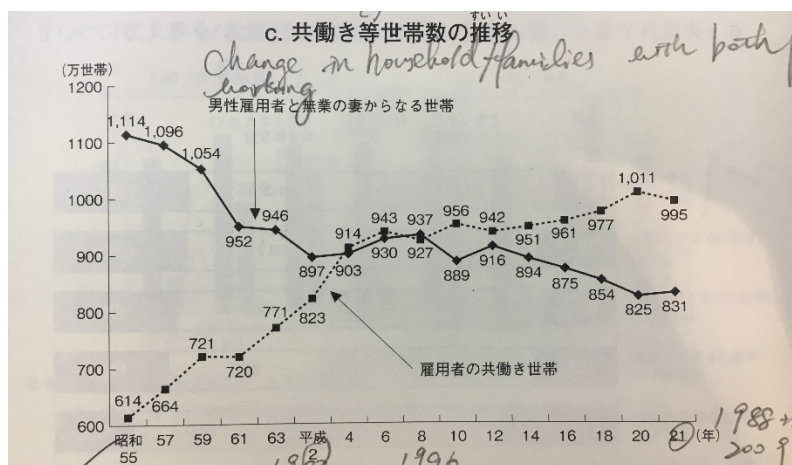


図 5

今の若者の中では、共働き希望派が多い(図 5 の調査によると)。一つ目の原因は金銭的なことだ。お金が多ければ妻は専業主婦になってもらいたい。28 歳男性はこう言った。『やっぱり自分の年収のことを考えると、妻には働いてもらわざるを得ません。と言ってしまうと情けない気持ちになりますが、現実を目を向けると家計が苦しくて……。自分の稼ぎがもっと多ければ、専業主婦になってもらいたいのですが』

二つ目の原因は働いている妻の姿が好きだ。『もともと、付き合っているころから、妻は働くのが好きだったのと、働いている姿がキラキラと輝いていましたので、結婚後もぜひ仕事は続けてもらいたいと考えていました』(32 歳男性/ショップ店員)

1.3 平均初婚年齢と母親の平均出産年齢は変わったか？

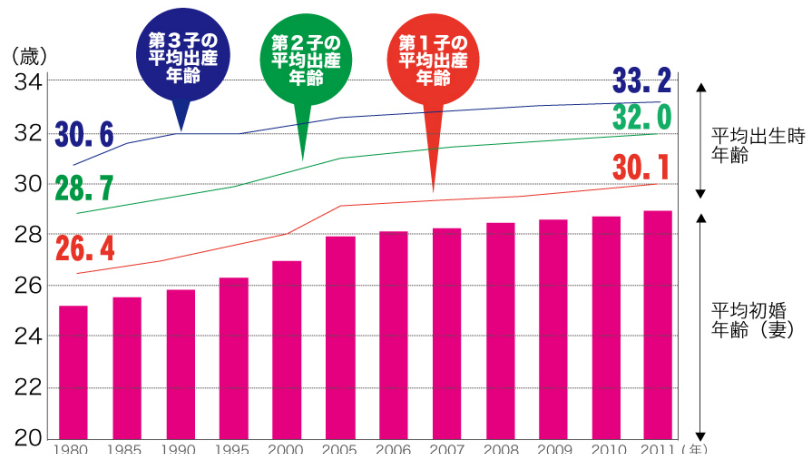


図 6

2011年度の平均初婚年齢は上昇傾向で、第1子の平均出産年齢は30.1歳となった。1980年から3.7歳増えた。

30歳を過ぎてからの結婚や出産もめずらしくなってきた、その背景には、女性の仕事力が以前よりも認められ、職場で戦力として求められるようになったことや、不景気による経済事情などから、結婚しても簡単には仕事を辞められないといったことも考えられる。つまり、女性の意識や社会の変化が晩婚化につながり、結果として妊娠・出産年齢の上昇や子供がなかなかできない人の増加をまねき、「妊活」という言葉も出てくるようになったわけだ。

1.4 今の若い男性は育児をするか？

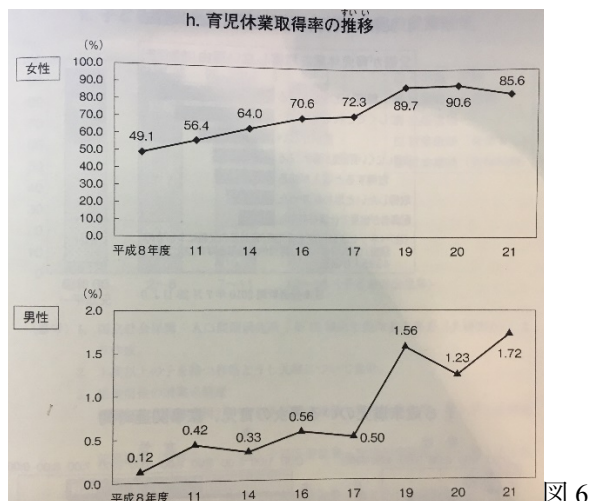


図 6

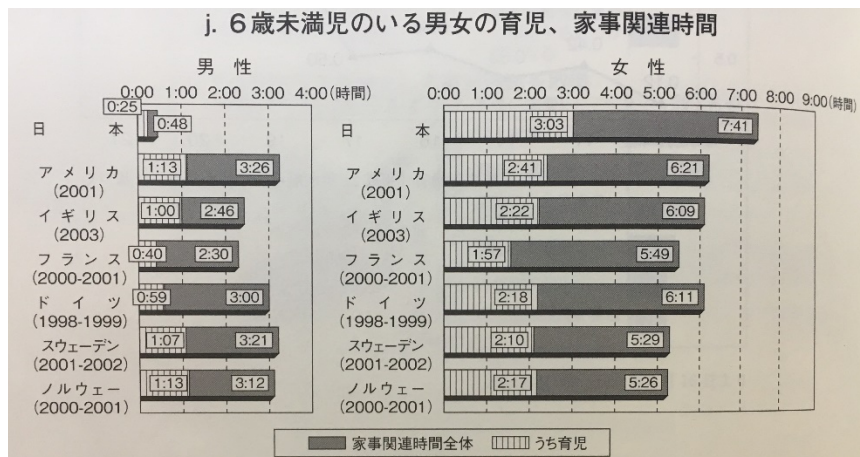


図 7

育児の場合には、男性はいまだに子供を育てる者としてみとめられていない。厚生労働省の人口動態調査によると、女性の育児休暇習得率はおよそ八割だった。男性の育児休暇習得率はずっと2%以下だった。男性はほとんど新生児の育児をしない。六歳未満児のいる男女の育児、家事関連時間調査にとると、女性の育児時間は4時間で、男性は二十分だ。日本の男性はまったく育児参加をしない。

でも、若者の考え方は少しずつ変わっている。今「妊娠体験」というキャンペーンは状況を改善するために実施している。男性に「仕事と生活の両立」を大切にすること、また、子育てに優しい職場づくりを啓発していくという。妊婦体験をした男性は、女性の大変さを実感した、家事や育児に積極的になる。

そんなキャンペーンがあれば、若い男性は昔の世代と比べて、もっと育児をすると思う。

Q 妊婦体験をした男性に聞きました。
男性も家事や育児をするべきだと思った。

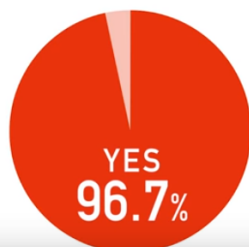


図 8



図10

1.5 日本と中国の若者の結婚観の比較

中国の女性の中では、働く人が日本より多い。社会は「女性は働くべきだ」という考え方が持っている。育児のために、女性は男性よりもっと時間をかける。でも、中国男性がかかる時間は少し多い。別の方面は日本と同じだ。今の若者の結婚年齢は以前よりあがったが、若い世代は少しいい方向に変わった。

2 おわりに

2.1 詳しい結論

今の若者の結婚観は変わった。

若者の結婚年齢は 1950 年と比べると、大体 5 年ほどのプラスとなる。晩婚化になった。

今の若い女性は結婚しても仕事を続けたい。仕事への意識も高いようだ。夫はこんなやり方を支える。今の若者の中で、共働き希望派が多い。一つ目の理由は金銭的なことだ。二つ目の理由は働いている妻の姿が好きなことだ。

今の若者の平均初婚年齢と母親の平均出産年齢もあがった。2011 年度の平均初婚年齢は 1980 年から 3.7 歳増えた。女性の意識や社会の変化が晩婚化につながり、結果として妊娠・出産年齢の上昇や子供がなかなかできない人の増加を招いた。

今の若い男性は育児をほぼしない。でも、いい方向になっている。今「妊娠体験」というキャンペーンは状況を改善するために実施している。そんなキャンペーンがあれば、若者の男性は昔の世代と比べて、もっと育児をすると思う。

2.2 提案-提言

子供の教育費と生活費が増えた。今の若者は昔の世代と比べて、給料が低い。今仕事をしている女性はたくさんいるし、「育児休暇を取れば周りに迷惑がかかる」を考えている女性が多い。政府は仕事と子育ての両立支援など子供を生み育てやすい環境づくりに向けての方策をたてているが、児童福祉の理念の普及・啓発のための各種事業及び行事もするべきだ。「妊娠体験」のようないうキャンペーンはもっと実施したほうがいい。

参考文献

原久子（1997）「女の領域、男の領域」「沽券気にしない若い男性増える」アモルフ
ァス「日本経済新聞」

市來 孝人（2018）「九州・山口の知事が妊婦に？ 世界 188 ヶ国に拡散された知事の妊
婦体験動画 制作の理由」

<https://cg.mpjob.jp/%E3%80%90%E3%82%A2%E3%83%B3%E3%82%B1%E3%83%BC%E3%83%88%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E3%80%9110%E4%BB%A320%E4%BB%A3%E3%81%AE%E3%83%AA%E3%82%A2%E3%83%AB%E3%81%AA%E7%B5%90%E5%A9%9A%E8%A6%B3%E8%AA%BF%E6%9F%BB/>

「【アンケート調査】結婚したい！仕事したい！子どもも欲しい！ 混迷する時代に垣間見
る、若者世代の結婚観」

（2017）「共働き夫婦の家事負担。家事をする夫と、しない夫の違い」

<http://pinay.jp/articles/kaji/2017/12/3286>

不破雷蔵（2005）「日本の婚姻率・離婚率・初婚年齢の推移をグラフ化してみる(最新)」

<http://www.garbagenews.net/archives/2013777.html>

妊娠したいを応援「妊娠しやすい年齢」

<http://www.associe-net.co.jp/maca/nenrei/>

都道府県別統計とランキングで見る県民性ー第一子出生時年齢：男性 [2016 年第一位 東京都] <http://todo-ran.com/t/kiji/14295>

厚生労働省「厚生労働省平成 29 年人口動態調査」

厚生労働省「厚生労働省白書（平成 18 年版）」

厚生労働省「平成 21 年度雇用均等基本調査」